

平成22年度 第8回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 若者から見た川越 ～



日時：平成22年11月24日

午後5時～午後6時30分

場所：東京国際大学 図書館5階大会議室

参加者

東京国際大学理事長・総長、東京国際大学学長、東京国際大学学長補佐、
東京国際大学の学生の皆さん 48名

出席者

市長、秘書広報監、市民部長、文化スポーツ部長

意見数

分類	件数	内容	頁
教育・文化・スポーツ	7	大学と市の関係	7
		大学と連携したアイデアの生み出し方	9
		不登校問題対策	11
		教員の増員	12
		放課後指導員	13
		スポーツ施設	18
		不登校の予防対策	18
都市基盤・生活基盤	5	川越の感想	2
		川越の水	2
		鉄道の増設	6
		景観行政の効果	7
		狭い道路の事故防止対策	14
産業・観光	7	店舗の増設	4
		映画館の設置	5
		観光行政の効果	7
		大型ショッピングモール	10
		商店街の空洞化対策	11
		雇用政策	16
		商店街の後継者対策	16
環境	1	川越の緑地	2
地域社会と市民生活	3	川越駅西口の自転車置場	3
		繁華街の補導事業	13
		防犯灯の設置	15
計	23		

意見交換（要約）

《川越の感想》

川合市長 最初は切り出しにくければ私のほうからちょっと伺いますけれども、出身が川越市外の人ほどのぐらいいらっしゃいますか。かなり多いですね。

そうしたら、自分の出身地、その自分が住んでいるところと比べて、川越はどういうところがいいとか悪いとか、もしそういう感想があれば、そういうことから始めてもらってもいいと思いますけれども、どうでしょうね。

意見 埼玉の東松山市出身ですが、東松山市は少し駅周りも発展してきているのですが、歩いていてもそこまで楽しみがないというか、比べてみて川越市は、駅も多いというのがありますが、歩いていて飽きないというか、活発なのかなと、歩いていて思った感想です。

意見 自分は秋田県秋田市の出身なんですけれども、川越は、こっちに引っ越してきても余り違和感なく川越に慣れたかなという感じがあります。川越は発展している部分と風景がすごくきれいな部分の両面があって、すごい暮らしやすいなと思いました。

《川越の緑地、川越の水》

川合市長 はい、ありがとうございます。どうでしょう、ほめ言葉だけではなくて、こういうところはどうかと思うというようなところがありましたら。

意見 僕は長野県出身ですが、水のきれいなところで、山もすごくきれいなところですが、川越に来て最初に思ったのは、すごく空が広いなということだったのですが、すごく緑が少ない。木が少ないんですね。公園とかに行かないと、ほとんど木を見ないので、なかなか和む時間がないというか、そういう自然のなさというのがちょっと川越って、発展しているようで、なんか、こういうところないなと思っちゃったんですけれども。

あと、水がとてもまずい。こうやってしまうとすごく失礼なんですけど、実際に本当に水がまずいです。飲んでいて、すごくおいがして、「なんだろう、この水」って思っちゃうような水なんですけれども。東京の水は最近結構飲めるようになってきたなと思ったのは、友達の家でちょっと飲ませてもらったときに、川越と比べてうまいと思ったのが原因だったんですけれども、やっぱり水がまずいとなかなか居たいと思わない。

川合市長 長野県の長野市ですか。

意見 茅野市というところです。

川合市長 それは長野に比べれば木が少ないというのは、まさにそのとおりですが、ただ、それでも川越は田んぼとか畑があるから、東京の近辺にしてはまだまだ緑が多いほうじゃないかなと私は思っているのですけれども、確かに森、林が少ないということはよくわかります。私も、木はなるべく切らないようにして、かつ増やしたいなと考えていまして、公園や街路樹とかを充実していきたいなと、そんなことを考えています。

それと、水は今、川越の水道の1割ぐらいが井戸水ですけれども、9割方は県から買っている川の水なのです。そういうこともあって、若干味のほう落ちるという面はあろうかと思えます。これはどうやって改善したらいいのでしょうかね。

植松秘書広報監 きょう、皆さんの前にある、これは川越の水です。

意見 ちょっとびっくりしました。

植松秘書広報監 川越の水はおいしくないとおっしゃいましたけれども、ぜひこれを飲んで帰っていただきたいと思えます。残ったらお持ち帰りいただきたいと思えますが、これは川越市の郭町というところにある浄水場の井戸から取った水なのです。その水は大変おいしい。これも割と評判いいです。

今、市長が申し上げたように、県水と言って、荒川の水を入れているためにおいしくない。だから、冬になって県から水が入ってこない時期になると、井戸水のほうを増量しますから、冬になるとおいしくなるとも言われています。

では、これをどういうふうに改善したらいいかというのは、今この場では明快にお答えできないのですが、要は割り当てで県水を買わされている状況がありますので、それをすぐさまやめるわけにもいきません。

当面はおいしくないのを我慢していただくしかないと思えますが、一方で、おいしい水もありますので、例えば鏡山というお酒は、一時期なくなったのですが、復活しました。このお酒は川越で取った水でやっています。醸造は川越の杜氏じゃないのですが、造り酒屋じゃないのですが、お水だけは川越のものですから、きちんと井戸水はおいしいということだけ申し上げておきます。

《川越駅西口の自転車置場》

意見 私は川越出身で、現在も川越市内に住んでおり、通学には川越駅を利用していますが、川越駅前の無料駐輪場が来年から整備され、有料になると聞いております。川越市は財政難ですし、また議会等で決定したことだと思うので仕方がないとは思いますが、料金設定を低価格にしていきたいです。

学生なので学費は親に出してもらっていますが、その他のお金はアルバイト等で捻出しているの、民間の駐輪場と同じ条件設定だと学生には経済的負担が大きいので、その点を配慮していただきたいです。

川合市長 川越駅西口の市が持っている土地で、今まで無料で自転車、バイク等を置いてもらっていたのですが、ここのところで、たとえ少しでも歳入を確保しようということで業者に任せて、簡単に言えば業者に土地を貸して、そこで駐輪場を営してもらい、市は土地の賃料をもらうという形でやる予定です。今の業者が出してきた案では、自転車は月極めで2,000円ですか、そんな感じに多分なってしまうと思います。意見 ありがとうございます。

尾崎市民部長 今、業者のほうから来ているのは、1日1回100円という値段設定をしているようです。負担にならないように、なるべくうちのほうでもお話ししていきますので、よろしく願いいたします。

《店舗の増設》

意見 今、卒論で、小江戸の観光地としての発展について調べていまして、私は1年生のころと2年生のころに、小江戸川越でインターンシップとしてボランティアをしていたのですが、そのときによく思っていたこととして、川越駅から一番街に行くまでに、歩いて20分、混んでいると25分ぐらいかかってしまうのですが、その一番街のメインに行くまでの道がすごく遠く感じます。それは多分余りお店がないのと、あと休憩できるようなカフェや公園が少ないので遠く感じるのかなと思うので、もう少しお店を増やせないでしょうか。

川合市長 お店を増やすというのは、民間の、要するに皆さんにやってもらうということになると思うので、市がお店を営むわけにはいかないですね。そういうことから考えると、民間の人たちが、こういうお店をここに作ろうという気になってくれないと、なかなか難しい面はあるのですが、今おっしゃられたように、しゃれたお店であるとか、ちょっとのぞいてみたいなというお店があるというのは町の魅力の重要な部分ですので、そういう方向へうまく誘導するように行政としても考えていきたいと思っています。

植松秘書広報監 今おっしゃったのは、川越駅から恐らく一番街の北の札の辻というところまでのことを言っているかと思いますが、全部で2.5キロぐらいあります。だから、よほど速い足の人じゃないですか、25分で来るというのは。

これは商工会議所に言わせると、ゲメインシャフトとゲゼルシャフトだと言うのですが、札の辻は江戸時代に町割の基点となったところなんです。そこから南に下がった一

番街は明治期に建った蔵造りの町ですね。さらに南に下がると、大正浪漫夢通りという通りがあって、ここは大正時代の建物が集積しています。

カフェが少ないというのは、そこから南側の多分本川越駅の間だろうと思いますが、この辺は昭和の時代の町ですね。さらに川越駅周辺、川越駅のところは平成2年にアトレがオープンしていますから、平成の時代の町だということで、江戸期から平成期までの町並みが散策できるということで、全国でも長い商店街だと言われて、歩くのが楽しいとほめてくれる方もいます。

ただ、おっしゃるとおり魅力的な店がまだ少ないし、最近、蔵里とって、昔の造り酒屋のところに、市も出資しているまちづくり会社というところがお店を開きました。埼玉県の特産と地産の料理をメインに出すようなお店をやっています。ただ、ちょっと夜が早いのですが、まあぼつりぼつりできております。

できれば、皆さんのような若い人たちが川越の町中で、もっと散策してもらえ、そういうことを皆さん自身の力でもつくっていただければありがたいと思うし、チャンスがあればお店をやってみたいなんていう人も出てくれば、なおさらうれしいかと思しますので、提言は提言として承りますけれども、皆さんもできれば主体的にまちづくりにかかわっていただければ、なおさらありがたいなと思います。

川合市長 いずれにしましても、魅力あるお店というのは歩きたい町の重要な要素だと思いますので、そういうものを誘致するというか、地元の人にやってもらうような働きかけを行政としてもやっていきたいと考えます。

学生の皆様も、卒業した後、会社に入るというのも一つの手だけれども、自分で商売をやるというのも一つの道として考えてもいいのではないかなと、川越で自分が思っているような店を営む努力をしてみるというのも、一つの仕事のやり方ではないかという気もしますので、チャレンジしてみませんか。

《映画館の設置》

意見 私は川越市出身なのですが、3歳から今までずっと住んでいて思うことの一つに、まず映画館がないのが悲しいなと思います。川越市に一つ映画館をつくっていただければ、若者が集いやすかったりとかするんじゃないかと思います。

スカラ座という映画館がありますが、そこってちょっと私でさえも場所がわからないので、もっとわかりやすい場所というか、駅前に映画館をつくっていただければうれしいです。よろしく願います。

植松秘書広報監 私も同感です。今は若葉のシネプレックスか、あとは南古谷のユニクス、近くにはこのくらいしかないですよ。それで片方が角川で、片方がユニバー

サルだから、配給される映画も限定されていて、本当に見たい映画が来ない。時期によってはアニメばかりとかね。だから、おっしゃっていることはよくわかります。かつては5館ぐらい川越市内の町中にあったのですが、やはりテレビが普及する中で廃れてきて、現在のような状況になっています。

今言われたようにスカラ座の1館だけは、皆さんと同じような若者たちがNPO法人をつくって、そこで頑張って映画館を守ってくれているという状況です。個人的に言えば、皆さんの力でこのNPO法人を守り立てていただいて、スタッフだってとにかくいいみたいだから、できれば支えていただくような活動もお願いできればとは思いますが、本当はもっと映画館もつくりたい。

ただ、実際には、都市計画といって、できるところが限られてしまうのですね。要するに用途地域というのがあって、そういう条件下でできる場所が限られるものですから、どこでもできるというふうにはならない。しかも、基本的には市がやるということではなくて、民間の人たちが映画上映活動を通じて収益を上げるというのがやっぱり健全なあり方だと思います。

条件整備などについては市もお役に立てればいいなと思いますし、また国立のフィルムライブラリーなどもあるから、そういうところと提携することはいいと思いますが、きょう、あしたのうちに1館、2館と増えることはちょっと期待できないと思いますね。ただ、当面はスカラ座を守り立てていきたいというふうには思っています。意見 ありがとうございます。

《鉄道の増設》

意見 僕は、埼玉県川越市の川口というところから東上線の池袋を経由してこの霞ヶ関まで通っていますが、民間企業のことなので川合市長に言っても全然意味のないことなのですけれども、ほとんどの電車が川越市駅止まりで、坂戸方面に直通している電車が昼間だと1時間に5本しかなくて、その5本のうちの1本を乗り過ごすと、すっごいブルーな気分になっちゃって、もう学校に行くのが面倒くさいみたいになっちゃうんですよ。結構こっちのほうも川越市だからそれなりに市街化されて利用客も多いのに、昼間の電車の本数が1時間に5本しかないというのは余りにも理不尽じゃないかみたいな。なので、川合市長が、東武鉄道に圧力というか、なんかご意見を申して、ちょっとでも川越市の向こうでも電車に乗りやすくなるようにしていただければよいかと思います。

川合市長 市長の圧力で鉄道会社が簡単に動くのだったら、川越市駅も新河岸駅ももうずっと前にすばらしい駅になっていると思いますよ。これはまあ冗談ですけど

も、なかなかやっぱり鉄道会社は鉄道会社で採算とかの問題があるから、そう簡単にはいきませんよね。

ただ、このところで、東武鉄道に対しては、ホームに転落防止の柵とドアをつけてほしいとか、あるいはもっと長期的な展望ですけれどもずっと高架にしてほしい、踏切をなくすような投資をしてほしいという要望に行こうと思っていますので、そのときに一緒に、もっと本数をふやしてほしいという要望がありますよということはちゃんと伝えます。

意見 それはありがたいです。ありがとうございます。

《観光行政の効果、景観行政の効果、大学と市の関係》

意見 ことしの8月に、川越市都市計画部都市景観課のインターンシップでお世話になり、たくさんのことを学ばせていただきました。ありがとうございます。

そのときに感じたことが、インターン中に学んだことで、観光に力を入れているのはすごい理解したのですが、観光客を受け入れても、手が回っていないという状況もお聞きしました。それから都市景観にすごく力を入れているのはわかるのですが、果たして川越はどこに向かっているのかというのは、私にはちょっと理解が及ばなかったというか、それによって投資対効果の「効果」の部分のあらわれについてもう少しお聞きしたいなと単純に感じました。

それと、言語コミュニケーション学部で取り組んでいる、現代G P川越を世界に発信するというプログラムに関してですが、言コミが作成したパンフレットなどが市役所内または蔵の町並みのお店に積極的に置かれているという印象も余りなく、大学と市役所というか、大学と市との関係も薄れているのではないかなと思っています。なので、投資対効果の「効果」の部分を知りたいのですが。

川合市長 観光に関する投資対効果の「効果」ですか。

意見 そうです。果たしてその効果の部分が川越に住む方々にはどういうふうに影響されているのかということにも興味があります。

川合市長 ご質問の趣旨に沿った答えになるかどうかわかりませんが、川越の観光は、今までどちらかというと、私の見ているところでは、棚ぼた的な発展の仕方をしてきたのかなという印象も抱いているのですよね。

確かに一番街の蔵造りを守るための蔵の会の活動というのがあって、そのおかげで歴史的な景観を持った一番街が残ったという事実はあるのですが、観光客がいっぱい来てくれるようになったそのきっかけというのは、NHKの「春日局」というドラマであったり、このところで去年の「つばさ」であったり、そういうような面が結構

強いのですよね。

そういうことを考えると、川越市が今まで観光に投資してきたその成果として、この大勢の観光客がいるのかどうか、それは、何と言ったらいいのでしょうか、表現が難しいのだけれども、そんなに威張れないなという思いでいます。

それから、地元の人にとっての受けとめとしては、観光客にお金を使うのだったら自分たちのためにお金を使ってほしいよと、観光客は自分たちにとって、商売をやっている人は商売の売り上げが伸びるからいいけれども、一般の市民にとっては全然メリットはないよという受けとめの仕方の方がまだまだ多いのです。本当はそれじゃいけないと私は思いますが、やっぱり大勢の人が全国から来てくれて、町を活気づかせてくれているという面をしっかりと認識してほしいと思いますが、まだまだ地元の人には観光客に対するそういう見方の方が多くて、その辺のところを変えていかなければ、これから先の川越の観光は尻つぼみというか、だんだん縮小していってしまう心配があるという思いは持っています。

植松秘書広報監 要するに、まだあなたの目から見ると、川越市の向かっている方向性というのはよく見えないぞということなのでしょう。だから都市景観の分野で、これを全面的に前に打ち出して、そういうまちづくりをやっているのがよく見えないというふうに今聞こえたのですけれども、一番の問題は、やっぱりお金がないのです。市長は行財政改革を掲げていますが、基本は総合計画というものの中で、市のやるべき方向性は位置づけてはあるのですが、そして、また川合市長は、昨年市長になったときにマニフェストの中で、都市の品格ということを追いかけてほしいということを掲げています。

こういう関係の中から観光に対する評価は、今までの何となくボリュームにあった、あれもこれもという観光から、もっと質的な転換を図りたいと市長は言っています。ここの部分が極めて難しいので、一番街だって、最近はお土産屋さんばかりになってきて、本来の持っている魅力が失われていると批判する方も大勢いますし、予算規模からいって、あの辺にかけている予算の割合が果たして足りているのか足りていないのか、その辺の問題もあるかなと思いますが、今の観光、それから景観、これらについては、市長も、もう一度自分の中で組み立て直して、しゃべる時期が来るのではないかと思っていますが、ともあれ景観というのは、そこに見えることによってまちづくりが議論できるという特色があるんです。要するに時の鐘がある町だから今後どうしましょうとか、あるいは霞ヶ関だって、交通量があって、こういう緑もあって、だからこの町をどうしようとかとかというふうに、いってみればみんなの共通の目に見

えるものがあるから、まちづくりが語れるという面が景観にはあると思います。

だから、決して歴史的な町並みだけではなくて、景観を語ることによって、それぞれの地域の特殊性が議論の俎上に上るという意味合いでは意義があると思うので、景観というのは川越市にとって極めて重要な課題なのだと思います。

意見 インターンシップを通して景観に力を入れているところや都市計画に力を入れているのはすごく伝わりましたし、熱い思いは市役所の方々からいただいたので、私が市と大学のかけ橋になればいいなと思っています。もしうちの大学にできることがあればと、そこの考えもお聞きしたいなと思います。

川合市長 今の方のような思いをどういう形で受けとめることができるか、それは検討させてもらいたいと思います。せっかくそういうお考えを持っている人がいらっしゃるのだから、ぜひ川越の観光、あるいは景観のために協力をしてもらえればありがたいことです。それはちょっと課題とさせていただきます。

《大学と連携したアイデアの生み出し方》

意見 私は中国からまいりました留学生です。正直に言うと、私は川越に関しては全然詳しくない。日本に来てからずっと新宿に住んでいます。私が持っている川越市のイメージは、この大学に入学したときに新入生のオリエンテーションでうちの大学のバスで川越のいろいろなところに連れていってもらい、そのときに川越市の古い江戸時代の町を見せてもらって、すごい印象に残りました。

今回、市長さんがうちの大学を訪問するのをきっかけに、うちのゼミで、「若者にとって住みやすいまちづくり」というテーマで討論しました。そのテーマで討論したときに、やっぱり自分のアイデアを出したい。そのために川越市の古い文化を思い浮かべながら私が考えたのは、古いまち、古い文化を生かした形で利用して、何とか川越市の経済をよくすることができないかなと思っています。それには何が足りないのか、私が考えるのは、アイデアなんです。川越をよくするというアイデアが足りないんです。だから、そのアイデアを生み出すことなのです。

今回、私は東京国際大学と川越市との都市開発連携プロジェクトを考えたのです。このテーマはどういう中身なのか、時間をいただいてそれを説明したいと思います。

よくテレビを見るのですが、日本のテレビはコマーシャルがあって、idea for the life、実は人間はアイデアの中で生活していると思います。やはり川越市にはほかの市が持っていないいい条件があります。例えばそれは東京国際大学と言うと笑っちゃうかもしれませんが。

大学とは何かと考えると、自分がそういうアイデアを出す、アイデアを出す学生を

育てるとというのが大学の教育の要素だと思います。プロジェクトの名前も「Win-Win プロジェクト」という、両方が勝つというプロジェクトなのです。少人数のゼミナール単位のチームに分かれて、川越市の経済をよくするためのテーマを討論し、最後に「Win-Win プロジェクト大会」に参加する。そこでそのプロジェクトの審査委員の前で各チームが発表して、いいアイデアが次に進級する。次に進級したら、市役所の幹部たちがうちの大学に審査委員としていらして、もう一回そこで発表して、川越市の立場で、いいアイデアがあればそれを参考にする。後で具体的な資料をお渡ししますので、ぜひご参考にさせていただきたいと思います。

《大型ショッピングモール》

意見 僕は東松山市出身ですが、川越市駅と川越駅、本川越駅のことについて、商学部なので、商業的な面から駅周辺をちょっと考えてみました。もともと駅の周りはアトレだったり駅周りのデパートだったりとか商店街が発達してきて、ああいうふうになったと思いますが、今は消費者も車で移動ができるようになって、今だったら1時間以内には川口市の大型ショッピングモールだったりとか、ほかにも三郷市だったりとか、そういうところにも行けたりすると思うんです。

ちょっと質問したいのですが、川越市としては、これから駅の周りに、川越市の消費者もやっぱりそういうものに引かれて、消費者のニーズが外に流れていって、川越市の外で消費をするようになっちゃうんじゃないかなという心配と、そういう面を見て、これから駅の周りをまた再開発していくのか、川越市として少し郊外に大型モールを誘致したりとかするのか、お聞きしたいのですが、お願いします。

川合市長 今、郊外に大型のショッピングセンターみたいなものをつくるのはすごく規制が厳しくなって、できにくくなっているのですね。それは平成19年ぐらいから、国とか県がそういうふうの方針転換をした関係で、特に埼玉県は大型の工業団地みたいなものは新しくつくるのを認めるけれども、商業施設は基本的には認めない、商業施設をつくるために郊外の農地などをつぶすのは認めないという方向に来ているのですね。そういう中で、川越市外で郊外の大店がいっぱいできて、そういうところに川越の市民が買い物に行っているという現状があって、正直言って困ったなと思っているのです。

今、川越駅西口に、西部地域振興ふれあい拠点施設とあって、県と一緒につくるものがあります。そこには商業施設を入れて、川越駅西口のにぎわいの拠点というか、もとをつくるという方向で進めています。ただ、今こういう景気が悪い状況なので、そこに出てきてくれる、いろいろな商売をやっている人がどれだけい

るのかなかなか難しい状況で、その点でも困っているのだけれども、西口にそういう商業施設の一つの大きな拠点をつくらうという計画があって、そういう方向で進めているということはあります。

《商店街の空洞化対策》

意見 西口にその商業施設をつくるということで、あと一つだけお願いしたいのですが、商店街なども、一番街までの間に商店街があったりとかもお話しさせていただいたと思いますが、そういうものがまた新たなショッピングモールだったり商業施設をつくることで衰退に拍車がかかってしまうのではないかなと思いますが、そういったところをお聞かせできますか。

植松秘書広報監 全国各地で起こっている商店街の空洞化という現象がありますが、基本的に国が考えていることは、コンパクト・シティということで、歩いて生活ができるまちづくりというのを今考えているのです。それで、中心市街地活性化法というのができました。

中心市街地活性化法というのはどういうものかということ、中心市街地の中の個別の商店たちが頑張っ、そこできわいを持たせて、郊外型のショッピングセンターということではなくて、あくまでも中心市街地にある商店街の元気が出る。先ほど川越駅から一番街までちょっと長すぎて魅力のない町で、店が余りないということだけれども、いわゆる空き店舗対策は行政が支援して、空き店舗があれば、そこに新たな魅力あるお店を持ってくる。それで川越市の中心市街地全体でショッピングセンターに負けないような魅力あるまちづくりをしていくというふうなことが必要だということで、川越市でも中心市街地活性化基本計画をつくりました。

その中の施策としても、空き店舗対策だとか、中心市街地の活性化、基盤整備とか、それぞれいろいろな魅力あるまちづくりを推進していくための施策について書いてありますので、川越市駅と本川越駅と川越駅という形で、先ほど市長が川越駅の西口のことについて申し上げましたけれども、本川越駅の西側、今は改札口が一つしかありませんけれども、反対側の用地についても既に駅広用地として買ってあるのです。

3駅が一つになれば一番便利なのかもしれませんが、もう既に3駅が分散してできていますので、3駅の回遊性というか、いかに利便性をよくするかということで、今取り組んでいるところです。

《不登校問題対策》

意見 今、人間社会学部では現代G Pという活動をしていまして、不登校予防支援プログラムというものを行っています。その活動に参加しているのですが、その活動を

通して、不登校問題に対して関心があります。市としては不登校問題にどう取り組まれているのですか。あと、それにどういうふうなお考えを持っているのか、教えてください。お願いします。

川合市長 不登校の問題は、どちらかというところだと教育委員会が中心になって対応してくれていますが、さわやか相談員というのを置いているのですね。各学校に一定程度のそういう方面の教育を受けた民間の人に来てもらって、不登校気味の子どもたちの話し相手になったり、相談に乗ってもらったり、そういうようなことをやっていますね。

それから、リベラという教育委員会の機関がありますが、そこでも不登校の子どもたちに対応していると思います。

実は、ここでこんな話をするのもあれだけれども、私の長男は、小学校4年の3学期から中学校3年の1学期丸々ほとんど学校に行っていなかったのですよね。その当時、市はリベラで対応してくれていましたね。3年の2学期からはまた学校に行き始めたのですが、その当時も、さわやか相談員というのはあったような気がしますね。さわやか相談員というのは大変評判がいい制度だと思います。

私もそういうことがあったから教育問題とか不登校の問題に対しては関心があるのだけれども、いろいろなことがいっぱいあって、今、不登校の現状に対してどう対応しているのかというのは、詳細は私の頭の中には入っていません。

ただ、去年聞いたところでは、結構川越は不登校が多いという話だけれども、最近の教育長の話では大分減ってきたと聞いています。きょうも、中学校1校と小学校2校に行ってきましたが、その行った中学校は10人近く不登校の子どもがいるけれども、さわやか相談員に対応してもらっていると。小学校は、きょう行った2つの小学校は、いずれも不登校の子どもはいないという話でした。

尾崎市民部長 教育委員会のほうのいろいろな情報がございます。ですからあとでお名前を教えてください、別途お答えさせていただきますので、後で担当のほうにお名前を覚えておいてください。申しわけありません、全部答えられなくて。

意見 はい、ありがとうございます。

《教員の増員》

意見 僕も現代GPで不登校支援のボランティアを1年生のときからやっていますが、きょうもそのスチューデント・サポーターといって不登校支援のボランティアを中学校に行き行ってやってきましたのですが、学校で抱えている問題というのは不登校だけではなくて、やはり生徒さんの逸脱した行動というか、やんちゃな生徒がすごくふえてきていて、先生方というのは、一人一人の生徒さんのことを見れていないという話を

聞いてきたんですよ。

その中学校ではすごく教員の数が少なく、先生1人当たりの空き時間が1時間しかなくて、本当にいろんなことに手が回らないという話を聞いてきたんです。そこで、川越市のほうで教員の採用の数とかはふえたりはしないのかと思っていますが、市長さんの考えを教えてください。

川合市長 教員の採用は県がやるのですね。今、中核市市長会では、川越市も中核市なのですが、採用の権限などを中核市に持って来る要求をやっている、そんな段階です。採用は県で、教員の数は生徒の数に応じて法律か条例で決められていて、基本的には全国一律のはずです。

今、学校の先生がすごく忙しくて、子どもにきちんと対応できていないという問題意識は私も持っています。これをどうしたらいいのだろうかと考えているのですが、一つ考えられることは、例えば教育委員会に対する報告書をつくらなければならない、何かあると必ず書面で報告をしなければならないとかで、そういうものがかなり時間をとっているのかなという思いもあるので、その辺のところを少し変えれば、今よりは余裕が先生方にできるのではないだろうかと考えているのですが、まだそれは私の頭の中で考えているだけで、実際にそういう方向で動かすとか、そういうようなことはやっていません。

ただ、問題意識として、今の学校の先生が余りにも忙し過ぎて、子ども一人一人に対応する時間が少なくなっているという問題意識は持っていますので、市としてできる範囲でそれを改善していこうという考えはあります。

尾崎市民部長 今のお話ですが、第4回目のタウンミーティングで、市内の小中学校の先生に集まってお話いただきまして、市長といろいろな教育の問題などのお話をさせていただいて、市長も、できるところからということでお話しておりますので、聞く機会はいろいろつくって持っておりますので、今のような問題についても、ぜひまたお話をいただいて、みんなで解決していければと思っています。

《放課後指導員、繁華街の補導事業》

意見 教育の分野で2点ほどご質問と、あと提言ですが、まず、先ほどの教員の手が回らないというところで、私は志木市で放課後指導員というボランティアをやっています、そこでは、学力で少し成績の低い子に放課後に補習をするというボランティアをやっているのですが、そういったことで、まず学力面に対しては教員の負担を少し減らせるのではないかと思います。

もう一つですが、僕は東京の新宿区出身で、今も新宿からこちらに通っていますが、

新宿と川越市というのは非常に類似しているというか、駅周辺にはショッピングモールがあったりとか類似している点があります。あと一番似ているところが繁華街で、クリアモールと歌舞伎町があるというところですが、歌舞伎町では中学生、高校生に対して補導員だとか保護する人がいるのですけれども、クリアモールではそれが見られなかったの、そういった対応はどうかしているのかということをご質問したいのです。

川合市長 放課後指導員というのは、県がことしから始めた事業とは違いますか。

意見 志木市が独自に採用などをしているので、志木市独自の活動です。

川合市長 そういういい制度があるのであれば参考にさせてもらって、川越でもそういうのを取り入れるとか検討してみたいと思いますけれども、県がことし始めたのがありますよね。塾に通えないような子どもに対して勉強の指導か何かをやる、そういうのがありますよね。

意見 はい、あります。

川合市長 それに川越も手を挙げればいいのかなど思ったりしているのですが、志木市で特にそういうものをやっているのであれば、後ほどどういう制度なのか情報をください。

尾崎市民部長 クリアモールの防犯関係ですが、川越市の取り締まりの重点地域ということで、商店街さんですとかお住まいになっている自治会の方ですとか、いろいろな方が防犯のまちづくりということでモニター等を設置しまして、月に数回非行防止等、少年の補導ですとか、地域の方と一緒に、明るいまちづくりの対策をやっております。

なかなか見る機会がないかもしれませんが、定期的に警察さんですとか皆さんと一緒に、子どもを非行から守ろうというような形で事業を行っていますので、学生さんも入っていただいたりできるような方向で、みんなで一緒になって何かできればなと思っていますけれども、重点的に今やっております。

《狭い道路の事故防止対策》

意見 自分は八高線を利用していますが、すごい身近なことなのですが、八高線を利用して、皆さんにお伺いしたいのですが、的場を利用している方っていらっしゃいますか。ああ、ほんとですか、ありがとうございます。

それで、結構駅から学校までの道がものすごく狭いんですよ。傘をさすと危ない。また、自分が体験したのですが、当て逃げされたんですよ、ミラーとかパーンと当たって。その間に幼稚園とかもあるんですね。小さい子がすごくいるので、すごい危な

いと思うんですよ。埼玉って結構事故率も高いと思いますが、事故防止対策というのは川越市はできているのかなと疑問に思いました。

一番大切な、お金がどうこうという問題もあると思いますが、人の生命を第一に考えられているかどうかというのをちょっとお伺いしたいなと思います。

川合市長 今言われた道というのは、的場駅から霞ヶ関駅の踏切を通っている道のことですね。川越・越生線という名称の道だと思いますが、それは県道なのです。今、霞ヶ関駅の踏切から南のほう、この東京国際大学へ入り込む右折する道あたりまでは順次拡幅の工事を、買収を進めているところです。それがいつになったら南の的場駅のほうまで行けるのか、大変申しわけないのだけれど、何とも言いようのないところなのです。拡幅するには時間がかかるだろうと思っています。

今言われた、人の命を一番優先にすべきだろうというのはまことにもっともお話だと思うので、私ももちろんそういうようなことを第一に置いていろいろな政策をやっているつもりではありますが、歩道もない、子どもたちの通学路も整備されていないところが多い中で、今とりあえず小中学校の通学路で危険が大きいと思われるところを重点的に改善、改良していこうということで進めています。

今年度、そういう小中学校の通学路で危険箇所を地元のそれぞれPTAの方々などに挙げてもらって、それに対して次年度から優先度の高いものから順次対応していくというやり方で、道路についてはやっています。

この県道川越・越生線は、確かに狭くて通行量が多くて危険だというのはわかっていますけれども、当面できることは、特に危ないと思われるところにガードレールをつけて事故が起こらないようにするという、そんなところです。要望として伺っておきますが、それは基本的には県のほうに働きかけるということになります。県がやらなければ川越市でやってしまっても、県道を川越市が工事しても悪くはないのだけれど、まず第一には県のほうに何とかしてくれということで、要望としてそれはきちんと伝えていきたいと思います。

意見 わかりました。ありがとうございます。

《防犯灯の設置》

意見 僕はたまに川越駅の周辺に行って夜まで遊んだりするときもあるのですが、川越駅周辺はとても明るいのですが、例えば駅から離れたり裏側のほうに回ったりすると、すごい暗いんですね。そういうところはとても防犯性が低いかなと思ったりするものですから、そこに蛍光灯というか、明かりを持ってきて、もうちょっと明るくはできないのでしょうか、お願いします。

尾崎市民部長 防犯灯ですよ。防犯灯については、地元の自治会さんと一緒になって、暗いからそこにつけてくれないかというお話の中でやっていて、電気代はお互いで持ち合っているのですね。

いろいろなご要望があるので、だんだんふえていって、約2万灯ついています。全部が明るければいいのですが、逆に今度は農家の方にとすると、街路灯をつけないでほしい、防犯灯をつけないでほしい、作物に影響があるからというところもありまして、地域の方とお話をする中でつけていっているのですね。

意見 はい、ありがとうございました。

《雇用政策、商店街の後継者対策》

意見 なかなか出そうで出なかった質問だと思いますが、僕の聞きたいのは、雇用政策のことについてです。

ほんとに素朴な疑問ですが、市自体は東京国際大学と連携してどういう雇用政策というか、学生を、市を中心にこの川越で経済を復興させようとか、川越でもっと雇用を確保しようとか、こういう経済状況の中で総合的にどういう取り組みをしているのかなということを知りたいです。

ここに集まっている人たちというのはみんな、ある程度こうやって川越に多かれ少なかれ興味があると思うんですね。将来的には、ビジネススキルを蓄えて、川越に帰ってこようと、僕自身も今回お陰さまで経営コンサルタントの仕事を、内定をもらいまして、何年か後に農業の分野で、環境ビジネスとかの分野で、川越に戻ってきていろいろ貢献したいなと考えているんですね。もちろん独立をして。

僕はこの前、蔵造りの町に行って、こんな町並みがあって、こんなに情緒あふれる素晴らしいまちがあるんだなと気づいたのがほんと最近で、5年間ここにいるのに、それはほんとに去年とかおとしなんですね、そういうふうに気づいたのが。

僕は、実際、この東京国際大学の中でどれくらい川越のすばらしさに気づいている人がいるのかなと思ったんですよ。認知している人たちというのは圧倒的に少ないと思うんですね。僕がプライベートで蔵造りの町に行っていなければ、こういうふうにビジネスの場として僕が川越に帰ってきて何かしようとは思わないと思うんですよ。

だから、大学側もそうなんですけれども、市が積極的に学生と向き合っているのかなと、そこを聞きたくて、どういう雇用政策をしているのかということですが、素朴に、本当に、お願いします。

川合市長 学生と向き合うということと雇用政策ということとをどういうふうに結びつけたらいいのかなということを知りたいんですが、市としては、今の不況、就

職難の中で、県などからも補助金が出るのですが、それを使って臨時的な職員を雇うという形で一時的な雇用創出に対応はしています。

学生さんに対して雇用の面でどういう対応をしているかというのと、やっぱり一般の職員募集とか臨時職員などの募集の中で応募してもらおうという形でしか今のところ、雇用に関しての学生さんへの向き合いはありません。

ことしも、来年4月から働いてもらう職員の試験をやりました、きのう最終面接をやりましたが、大学卒は20人ほど一般事務職として採用する予定です。それ以外に、技術職などであと20人くらい採る予定ではありますが、その程度の雇用の対応しかできていないというのが現状です。

意見 ありがとうございます。そうすると、それは市役所単位のことであるというふうな印象を受けるのですが、さっきからずっとお話をしている蔵造りの町というのは、今後30年後、50年後に今の状態を保てるのか、それとももっと発展しているのか、次の世代を担っていく人たちがこれから生まれていくのかなということなのですけれども、そこまでの視野を入れているのかということもお聞きしたいですね。

川合市長 今回の質問は、一番街の蔵造りの町並みで商売をやっている人たちの後継者の問題はどうかという質問ですか。

意見 そうです。

川合市長 地元の人で商売を続けようという人は少なくなっています。どちらかというと、東京などから支店みたいな形で建物を借りてお店を出している人がじわじわとふえてきているのです。それに対してはどのような対策をとったらいいのか、なかなか難しい問題ですよ。どうしたらいいのでしょうか。そういう問題があるというのは認識していますが、それに対して、地元の商店の後継者対策というのは、クレアモール商店街でも同じように外から入ってきて商売をやる人がふえています。したがって、古い歴史のあるお店がだんだん減っていつてしまっているという問題をどうやって解決したらいいのか、なかなか正直言って難しいです。

意見 ありがとうございます。確かに難しい問題だと思いますが、やっぱり根本的には、川越市に対する愛着心であるとか、僕は小、中、高とずっと沖縄にいたのですが、やっぱり沖縄というのは、みんな地元に対する愛着心というのは「ゆいまーる」という言葉に表されるように持っているんですね、独特な雰囲気というのを。それを川越市の人たちが、学生が、大学、高校とか、そういう教育機関を通して、そういう愛着心というものを持てるかということころは結構重要なことだと思っているんですね。

だから、インターンシップをやるとか、川越現代GPであるとか、そういうプログ

ラムというのはすごく奨励されるべきだと思いますし、もっとこのようなミーティングというのはすごく重宝されると思いますし、もっと学生の意見を聞くという態勢を整えられればいいと将来的には思います。以上です。

川合市長　そういう方面での意見をぜひどしどし出していただいて、いいアイデアをいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

《スポーツ施設》

意見　私は台湾から来ました。私が見たところでは、川越で自由に運動できる場所、例えばバスケット場、サッカー場が少ないと思います。さっき、歩いて生活できる環境をつくりたいとおっしゃいましたが、私は、生活には運動することも大事だと思います。これを台湾と比べたら、やっぱり台湾ではそういう自由に使える公園とかスポーツ場が多いので、この点について伺いたいです。

木島文化スポーツ部長　ご指摘のとおり川越市にはスポーツをする施設が少ないということで、おっしゃるとおりだと思います。そういう意味で、ことしの4月に、今まで教育委員会にあった文化スポーツの部門を市長部局に移しまして、新たに文化スポーツ部というのができたのですけれども、基本的に今苦しい財政難の中で、いろいろな公共の運動施設を活用してもらおうということで、各小中学校の体育館だとかグラウンドについては一般市民に貸し出しています。例えば霞ヶ関中学校区のエリアの人たちが時間を融通し合って体育館を使ったり、グラウンドを使ったりという形でしております。

そのほかに、体育館としては、今川越の総合運動公園という中には体育館がございますけれども、そこには陸上競技場もあるし、テニスコートもあるし、バレーもバスケットもできる場所がありますが、基本的に川越市全体のエリアから見れば、運動施設は確かに、バスケットをする場所、バレーボールをする場所は少ないということで、これからまた新たに体育館については財政の許す範囲内で建設していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

《不登校の予防対策》

意見　二度目の発言になりますが、さっきから何回も手を挙げていたのは、市長にどうしてもお願いがあります。人間社会学部では、現代G Pとして不登校の予防の話をさっきしましたが、そこでは「第三の居場所」づくりという活動と「スチューデント・サポーター」という活動を行っているんですね。それに参加している学生というのは非常にやる気にあふれていて、目もルンルンで、みんな子どもたちとかかわるのがすごく楽しくてというやる気にあふれた学生ばかりなので、現代G Pで行われているス

チューデント・サポーターと第三の居場所づくりという活動について、市長に頭の片隅にでも入れていただけたらすごくうれしく思います。そのことについてもっと頭に入れておいて知っておいてください。よろしくお願いします。

川合市長 わかりました。そうしたら、教育委員会のほうに、東京国際大学にはこういうグループがあって、活動があるので、連携できるかどうか、その辺のところを検討させたいと思います。もう既に教育委員会とは何らかのコンタクトをとられているのですか。

意見 そうですね。リベラというのがありますが、そこで私は1年生のころにスチューデント・サポーターとして活動していたんですね。だからリベラには何回も通ったりしていますし、スチューデント・サポーターはそこと連携しています。なので教育委員会とは連携していますよ。

植松秘書広報監 ごめんなさい。実は市長と教育委員会とはまた別のものなのです。市長は、例えば学校を設置したりとか教育の予算を確保したりということはやります。だけど、学校にかかわる運営の部分については教育委員会がやることになっています。きょう来ている市のメンバーには教育委員会はいないものですから、ちょっと的確なお答えができていないということについてはお詫びします。

ただ、不登校の問題とか放課後サポートの話とか、それから今の第三の居場所づくりとか、これらについては、担当課を通じて必ず教育委員会に伝えますので、先ほどもかけ橋というふうにおっしゃった学生さんがいましたが、あるいは学生とどういふふうに向き合うのだという話もありましたが、皆さんの意見が川越市の政策として具体化できるのであれば、本当にいいことだと思いますので、そういうことはぜひとも、担当部署のほうに引き渡しますので、担当課のほうにぜひ申し出ていただきたいと思っています。

それから、さっきちょっと出た雇用の関係についても、やはり市には限られた権限しかないものですから、市として雇用拡大はぜひしたいと思っていますけれども、やはりできることは、中小企業に補助金を出すといった間接的なサポートしか市ではできないという現状もあります。

そういうことも少しこれから学生さんとやりとりする機会をふやす中で、具体化できる部分については模索していきたいと思います。ですから、今夜のところは的確なお答えができなかったことについてはお詫びしますが、これを機会に、そういうような提言やご意見については市のほうに上げていただきたいと逆にお願いだけしておきます。

意見 ありがとうございます。

川合市長 きょうは皆様方には大勢集まっていただきまして、本当にありがとうございます。かついろんな方面から活発な意見、提案をいただきました。若い人の新鮮な考えを行政のほうにどんどん取り入れていきたいなと考えていますので、こういうようなことをやったらどうかとか、こういうのをやっているのだけれど行政で協力してくれないかとか、そういうようなきょうのような提言あるいはご意見がありましたら、こういう場に限らず、どんどん出していただけたらと思います。本当にきょうはありがとうございました。